

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立松山工業高等学校
学校番号 24

評 価 実 施 日		令和2年2月10日（月）	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	菊池 伸英	同窓会会長	
	大北 謙治	前同窓会会長	
	柘田 真興	PTA会長	欠席
	日野 繁	株式会社 和泉モータース 取締役	
	矢野 昭仁	株式会社 伊予鉄グループ 人事課長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導 松山工業高校の生徒は、技術面や挨拶などよくできているが、就職をすると語学力も必要になってくる。以前にも英語の授業を増やすなどお願いしたが、現在の取組はどうか。</p> <p>(2) 生徒指導 (全日制・定時制とも) 教員が毎日校門に立ち、登校してくる生徒に対して挨拶するといった善い取組ができている。</p> <p>(3) 進路指導 松山工業高校は、就職の学校から、進学もできる学校になっている。進学面で、目標に達していないということだが、塾に行っている生徒は、どのくらいいるのか。</p>	<p>・外国と回線を結んで行うオンライン英会話を、昨年度は進学希望者だけであったが、本年度は1年生全員に対して授業で5回、2年生の進学希望者に5回行うことができた。次年度も継続する。 また、英検への取組では、合格率が向上し、高い級での合格者も増加している。更に、受験を奨励する。</p> <p>・校門で教員から積極的に挨拶を行うことにより、気持ちの良い挨拶ができる雰囲気づくりを進める。登校してきた生徒が、校門で自転車を降り、学校に対して行う「校門一礼」により、感謝する心を育てる。</p> <p>・早朝に行う0限補習や、放課後の3年生へのセンター対策補習、学期ごとに行う基礎力診断テスト（業者模試）とその課題により、進学に必要な学力の向上を図っている。塾に通う生徒は少なく、1・2年生に対する調査では、3.3%である。</p>

就職した生徒の3年後の離職率は17%ということだが、その理由など確認できているのか。

就職者の県内・県外の内訳は、どのようにになっているのか。また、その要因は何か。

地元で生徒を残してもらいたいという意見は、他方面からあると思う。学校でも、できる範囲で、教師から直接生徒に言ってもらいたい。

(4) 特別活動

企業から、入社した卒業生で、おとなしい子が多いと聞いている。部活動を積極的に行うことにより、人間関係から人間力が磨かれる。部活動への参加率は、どうなっているか。

(5) 工業指導

企業からの意見として、難しい資格をたくさん取っているが、その基となる学習ができていないと聞くことがある。高校では、基礎をしっかり身に付けさせなければならない。

(6) 人権・同和教育

松工人権宣言を掲げ、具体的な取組ができている。

(7) 環境整備

適切である

・企業に確認をしている。結婚による退職も多いが、他の理由としては病気によるものがある。配置換えなど、企業でも仕事を続けられるように配慮をしてくれているが、どうしても会社に行かれなくなったと聞いている。仕事の内容が合わないといったことがないように、今後も就業体験や職場見学などの多様な体験活動の取組を推進する。

・以前は県内が多かったが、本年度は県内・県外が半々である。要因としては、県外の企業が採用数を増やしたことがある。生徒からは、福利厚生が県外の企業の方が良い、やりたい仕事は県外の企業にしかなかったという意見もある。スペシャリスト育成会議で県内企業からも直接意見を聞いている。その意見を参考にして、県内就職に対する進路指導を各科の科長を中心として行う。

・1年生は、全員部に加入することになっている。全体では、96%の加入率である。運動部への加入率は、68%である。部活動を3年間続けることを奨励し、学年やクラスを超えた人とのつながりのなかで、心の成長を促す。

・化学や物理、数学の考え方は、工業各分野での基礎となるものである。数学は、モーニングスタディの時間に行う基礎力向上テストを行っているが、理系的感覚が育つように、専門科目も含めた全ての教科で取り組む。

・本年度は、松工人権宣言の周知の年であった。次年度は、宣言の内容に基づいた実践力の育成を図る。

<p>2 重点目標について 適切である</p>	
<p>3 説明・公表について 学校関係者評価委員会の資料を事前に送付できていることがよい。各課の説明も丁寧である。</p>	<p>・本年度、学校評価委員の方々には、本校の具体的目標への取組を1年間通して評価していただくため、自己評価表（計画）を4月に確認していただいた。保護者・中学生へは、松山工業高校を知っていただくことを第一にして、体験入学、松工オープンスクール、授業参観週間などの実施、ホームページの充実を行ってきた。次年度は、本校の良さを知らせていただく取組を更に充実する。</p>
<p>4 学校運営への提言 自己評価表の「評価」は控え目だが、それぞれの項目で例年より進捗している。会社や地域と協働しながら、生徒一人ひとりを見つめた学校運営ができている。</p>	<p>・学校関係者評価委員会で見ていただいた自己評価表は、2学期末現在での評価である。年度途中であるため、評価の低いものもあるが年度末の目標達成に向け3学期も取り組んでいるので、今後評価が上がる。本年度110周年を迎えた本校は、卒業生や地元の企業、地域の皆さんの支えでできている。更なる高みを目指し、生徒が松工で大切にされていると感じる学校になるよう継続して取り組む。</p>

「1(2)生徒指導」の提言については、全日制・定時制課程に対してのものである。他は、全日制課程に対してのものである。